

## 12 公開特許公報 (A)

昭56-29209

51 Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 02 C 5 00  
11 00

識別記号

序内整理番号  
7174-2H  
7174-2H

43 公開 昭和56年(1981)3月24日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

54 眼 鏡

東京都杉並区永福3丁目37番12号

21 特 願 昭54-104088

21 出 願 人 一色宏

22 出 願 昭54(1979)8月17日

東京都港区三田4丁目3番15号

72 発 明 者 一色宏

72 出 願 人 斉藤周作

東京都港区三田4丁目3番15号

横浜市戸塚区小雀町507番地

72 発 明 者 斉藤周作

72 出 願 人 満尾浩治

横浜市戸塚区小雀町507番地

東京都杉並区永福3丁目37番12号

72 発 明 者 満尾浩治

261

明 細 書

## 1. 発明の名称

眼鏡

## 2. 特許請求の範囲

レンズを除く柄部、柄部またはその両方に、  
硝子及び微細な放射線を有するウラン酸  
を或いはトリウムを含有放射線物質を封入した  
ことを特徴とする眼鏡。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、レンズを除く柄部、柄部またはその両方に、  
硝子及び微細な放射線を有するウラン酸  
を或いはトリウムを含有放射線物質を封入した  
ことを特徴とする眼鏡に関する。

硝子は体液をイオン化して運動エネルギーの  
一部を電気エネルギーに変え、血行を良くする  
と至に血液をアルカリ性化する作用があること  
が知られている。これは硝子内に含まれた微量イオン  
の代謝作用によるものと考えられ、硝子内  
に含まれた微量イオンは代謝作用の在り消費され  
その補給には限界がある。また放射線物質は

262

硝子のイオン化作用より適量の微細な放射線を  
有する放射線物質は細胞の新陳代謝を促進する  
ため、神経系や電子配列に悪化を及ぼすなどの  
副作用を有すること知られており、放射  
線物質の外用は人体に危害を及ぼし、より微細な  
放射線物質は1日に含まれることとなく、  
健康上に危害をもたらす健康増進の面から望  
まれている。

本発明は、硝子製の硝子、放射線硝子が  
真空中に引き合い或いは真空状態下で固結し  
た中に放射線物質を固定する。代謝作用に  
より消費される微量イオンが放射線物質によ  
り補充され、硝子と放射線物質の作用が  
相乗して活性イオンの活動を加速増進するとし、  
このため放射線物質を利用した従来の健康増進  
に比し、放射線放射線物質を微量使用するだけ  
で人体に危害を及ぼすことなく健康を促進す  
ことを見出し、これを眼鏡の柄や柄に使用すべ  
し、人体の組織内の停滞した老廃物を排除し、  
血液を活性化することによってのみならず、神経

全8種材料(特に視神経に作用する)は、眼の内部に  
視神経の神経が通ることに着目して存在するもの  
である。

第1図は、第1に硝石2と放射状物質  
3とを交互に塗着した眼鏡1例を示し、4はし  
こ、5は棒である。第2図は硝石2  
・2が引合する状態に固定される時の硝石2と  
放射状物質3の配列例を示し、第3図は硝石2  
・2が反折し合う状態に固定される時の  
硝石2と放射状物質3の配列例を示す。即ち  
第1図の眼鏡の柄1には第2図または第3図の  
配列に硝石2と放射状物質3が固定されてお  
り、柄5にも上記配列に硝石2と放射状物質3  
が固定されておいてはさうまで厚い。また  
第4図に示されるように、柄1に硝石2と放射  
状物質3を連続して交互に配列固定してよい。

第5図は、成り立たる柄1の先に硝石2または  
放射状物質3を塗着して交互に塗着した例を示  
し、第6図は合成樹脂製柄1の製造時、原料に  
硝石2または放射状物質3の何れかを混

合して硬化させ、硝石2が混合されている時  
は放射状物質3と、また放射状物質3が混  
合されている時は硝石2と、内側に付いた柄に  
塗着した柄1例を示す。尚第7図に示されるよ  
うに、柄1の製造時原料に硝石2と放射状物  
質物質3とを混合しておいて硬化させてもよい。  
第8図は硝石2がまたは放射状物質3の  
何れかを柄1の製造時原料に混合すると共に、  
放射状物質3がまたは硝石2をその中に埋め込  
み硬化させた柄1例を示す。第9図は柄1の内  
側に樹脂状凹溝を設けておき、硝石2と放射状  
物質3とを交互に挿入固定して交互に柄1例を示  
し、第4図の柄1硝石2と放射状物質3の固定  
に通じている。第4図に示ける6は眼鏡面を柄  
1である。第5図・第6図及び第9図に示ける硝  
石2及び放射状物質3は柄1の製造時原料に原料  
を硬化させて固定してよい。第10図は硝石  
2と放射状物質3を混合してつく  
った合成樹脂製柄1を柄1に接着剤を利用する  
か加熱接着する等して固定したものを示し、柄1

は原料に放射状物質3を混合してあり、硝  
石2を所定の位置に配列して硬化させたものの  
原料に硝石2とを混合してあり放射状物質3を  
所定の位置に配列して硬化させたものに代える  
ことができる。尚柄1に硝石を埋め込んでおく  
か凹溝を設けておける。原料に放射状物質3  
を混合して硝石2を所定の位置に配列して  
硬化させたものは、これを柄1に直接自在に  
塗着することができる。第11図は、硝石2  
及び放射状物質3と原料を混合してあり、  
内側に樹脂状凹溝を形成すると共にその原料に  
全厚柄1を形成する凹溝を形成して硝石2と  
柄1の上記凹溝に全厚柄1を挿入し、硝石2  
柄1と樹脂状凹溝に塗着したものを示し、硝石  
の全厚柄1にも柄1を直接自在に塗着するこ  
とができることを示す。尚柄1も柄1同様に硝石  
2または放射状物質3を所定の位置に配列し  
かつ原料に放射状物質3または硝石2を混  
合しておいて硬化させてよいことはさうまで  
厚い。

以上硝石と放射状物質の固定法に就いて種々説  
明したが、要旨を要するに、範囲内で種々の固  
定法を利用することができる。

本発明は詳細に説明するに、眼鏡に放射  
状物質が極く微量と硝石を設けることによ  
り、眼鏡をかける人間の神経代謝を促進し  
かつ神経系に作用を及ぼす(すなわち、病気の回復その他に  
作用がある)等の効果を有する。

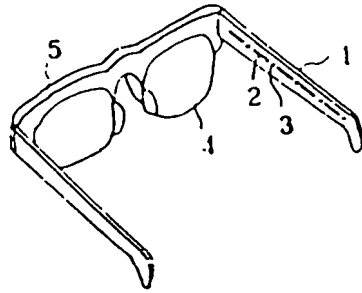
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例を示すものであ  
り、第1図は眼鏡1例の斜視図、第2図及び第  
3図は硝石と放射状物質の配列2例を示す図、  
第4図は眼鏡の柄1例の側面図、第5図〜第  
11図は眼鏡の柄1例の断面図である。

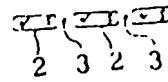
特許出願人

一色 玄  
有 限 公 司  
高 尾 浩 治

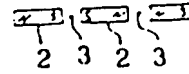
第1図



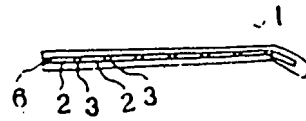
第2図



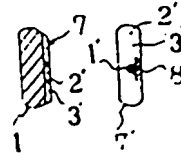
第3図



第4図



第10図 第11図



第5図

第6図

第7図

第8図

第9図

